

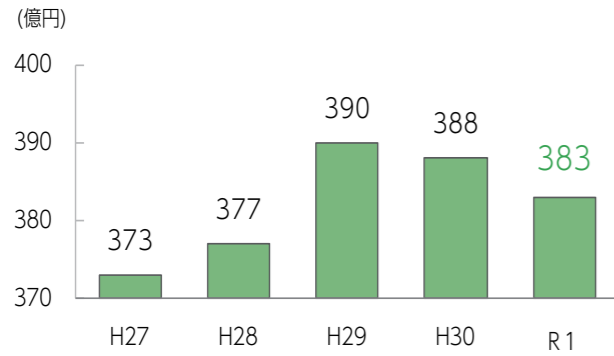
# 令和元年度 決算見込



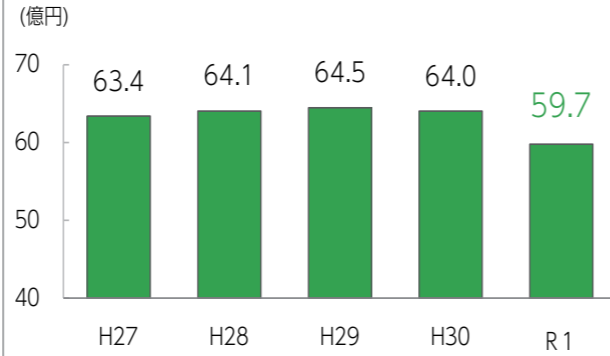
令和元年度の決算見込がまとまりました。決算は1年間の収入(歳入)と支出(歳出)の結果をまとめたものです。市の貯金・借金の残高や財政状況とあわせてお知らせします。

問(市) 財政課 財政係

## ◆借金(市債)の残高◆



## ◆貯金(基金)の残高◆



**■市の財政状況**  
財政が健全な状態かどうかの目安となる「財政健全化指標」は国の定める基準値を全て下回っており、三木の財政は健全であると評価できません。



**【ギモン】市が借金するのはどうして?**  
道路、学校、消防車など、長期にわたって利用するものの費用を、現在の世代だけが負担(納税)することは公平ではありません。市の借金には、将来の世代にも返済費用を負担していただくことで世代間の公平性を実現するという役割があります。

**■市の貯金と借金(一般会計)**  
貯金(基金)は、条例に基づき2.7億円を積み立てる一方、7億円を取り崩し、全体で4.3億円減少しました。  
借金(市債)は、22億円を新たに借り入れる一方、27億円を返済し、全体で5億円減少しました。

## ■市の決算状況

一般会計の収入と支出の差引額は1億4,156万円、令和2年度予算へ繰り越す額を差し引いた実質的な収支は2,340万円の黒字となりました。また、特別会計の決算は左表のとおりです。

	収入額	支出額	差引	
一般会計	327億3,007万円	325億8,851万円	1億4,156万円	
特別会計	国民健康保険	92億 643万円	94億 384万円	△1億9,741万円
	介護保険	71億9,730万円	70億3,139万円	1億6,591万円
	農業共済事業	6,659万円	6,743万円	△84万円
	後期高齢者医療事業	13億5,599万円	13億2,811万円	2,788万円
	学校給食事業	2億5,488万円	2億5,473万円	15万円

【企業会計(水道・下水道)の決算については、広報みき11月号でお知らせします】

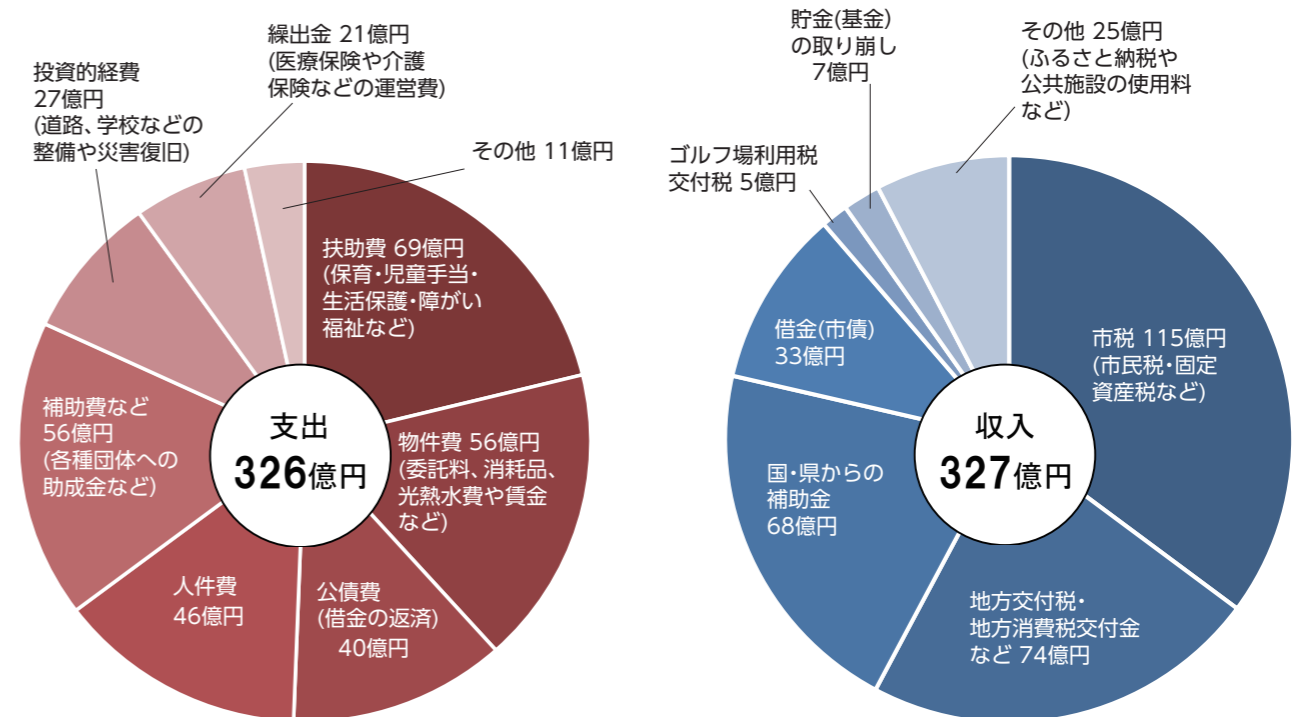
## ◆財政健全化の指標◆

指標の区分	三木市	国の定める基準	
		早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—※1	12.56%	20.00%
連結実質赤字比率	—※1	17.56%	30.00%
実質公債費比率※2	3.1%	25.0%	35.0%
将来負担比率※3	40.0%	350.0%	—

※1 実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字決算のため該当なし  
※2 2年間の市の基本的な収入(税収など)のうち実質的な借金(返済に対して国の支援があるものを除いた借金)の返済に充てている割合を表す指標  
※3 3年間の市の基本的な収入額に対する、将来返済する実質的な借金総額の割合を表す指標

**■今後の見通し**  
令和元年度決算見込は、国の定める指標上は健全ですが、収入の不足を補うために貯金(基金)を取り崩す必要が生じています。  
今後も人口減少が進むうえに、新型コロナウイルスの影響で景気は悪化し、短期的にも長期的にも市税などの収入は減少が見込まれます。  
一方で支出は、超高齢化社会の到来で社会保障費が増加し続けています。また、老朽化している公共施設などの維持補修や更新のための費用も増加していく見込みです。  
新型コロナウイルスと共存した社会を見据えた施策を実施し、この難局を乗り越え、10年後20年後の三木市が「誇りを持って暮らせるまち」としてあり続けるために、公共施設の再配置に取り組むなど、持続可能な財政運営に取り組めます。

## ◆一般会計の収入・支出の内訳◆



### 決算の特徴

- ・平成30年の7月豪雨や台風による災害の復旧のため、災害復旧事業費が前年度より6億円増加。
- ・消費税増税や賃金の上昇などの影響による委託料の増加や、学校教育用パソコンなどの機器(リース)導入の増加による使用料の増加などで、物件費が前年度より5億円増加。